



会話の効用

近頃、特に会話で使う言葉に「あれ」「これ」などの指示語が増えた気がします。

ある会合の席でこんな事がありました。人の名前がなかなか出てこないのです。とつさに「あの人、そうあの人よ」と言っていたら、すかさず切り返されました。「どの、あの人ですか」。

いわゆる物忘れなのでしよう。疲れがたまり睡眠不足が続くと無意識に「あれ、これ」が出てしまいます。体力的な衰えに加えて、「記憶の力(脳力)」が低下していることを実感することでした。脳力は、多くの人とふれあい会話をたくさんすることで高まるとも言われています。

コーヒー一杯でゆったりとした時間が流れる場所は街のオアシス的な存在です。上京した時、街角のコーヒー店へ行くとテーブル席に20代のカップルがいました。私がコーヒーストップを出るまでの15分ほどの間、注文した後の2

人は一言も言葉を発しませんでした。何のことはありません。互いに下を向き、スマートフォンを操作していました。街を歩き疲れてコーヒーストップに来店したとしても、会話のない姿は異様な雰囲気でした。都会ばかりではありません。こんな若者たちを指宿でも最近よく見かけるようになりました。"スマホ依存症"と言うべき現象でしょうか。

別に聞こうと思っている訳ではないのですが、耳に入ってくる若者の会話には理解不能な言葉が飛び交っています。相手に好きだと伝えることを、「コクる」と言うようですが、どうやら「告白する」を短縮した言葉のようです。何とも味気ない気がします。

昔、日本人は歌に託して恋心を伝えていました。草木が芽吹く春や作物が実る秋に、若い男女が山や野原、水辺などに集まり、思いを歌にして詠み交わす「歌垣うたがき」といわれる

行事がありました。

歌垣は豊作の祈願と感謝の祭りが始まりと言われていますが、次第に若者の求婚が主になったようです。言葉を大切にしていた時代、素っ気ない短縮語を使っているのは、相手にもされなかったことでしょう。

豊かな自然に囲まれて暮らした古代の人々は、誰もがロマンチストだったのかもしれませんが。

旧暦10月は神無月と言います。爽やかな空気に満ちたこの季節は、昔も今も新たな一歩を踏み出すのにふさわしい時季でもあります。



指宿市長
豊留悦男

